



武陽食品株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル  
Tel. 03-3211-4831 Fax. 03-3211-6004

『武陽月報』は、武陽食品株式会社と株式会社J-オイルミルズが、酪農家・肉牛農家の皆様に役立つ情報をお届けするニュースレターです。

## 12月生乳生産前年比3.8%増 農水省

農林水産省は、2021年12月の全国の生乳生産量は、64万5,637トン(前年同月比3.8%増)と前年同月をやや上回ったと発表した。地域別には、北海道が36万6,160トン(同5.2%増)、都府県は27万9,477トン(同2.0%増)といずれも10カ月連続で前年同月を上回った。

この結果3年(1~12月)の生乳生産量は、北海道が426万5,038トン(前年比2.7%増)、都府県は332万6,458トン(同1.3%増)となり、全国では759万1,496トン(同2.1%増)となった。

## 22年度国産乳製品輸入カレントのみ 農水省

農林水産省は、2022年度の国家貿易による乳製品の輸入枠数量について、前年度と同様にWTO協定で約束されているカレントアクセス数量(生乳換算13万7,000トン)とする方針を決めた。保存の利くバターや脱脂粉乳の仕向けが増え、現時点で国内の在庫量が十分にあるためとしている。

このうち、品目別の輸入数量は、脱脂粉乳750トン(生乳換算5,000トン)、ホエイ4,500トン(同3万1,000トン)、バターオイル500トン(同7,000トン)、バター7,600トン(同9万4,000トン)とした。なお、今後の需給動向等を踏まえて、5月と9月に輸入枠数量の増減を判断することとしている。

## 国際乳製品相場高騰継続 NZ

ニュージーランド(NZ)の大手乳業会社フォンテラは、2月の国際乳製品取引で、全乳製品の平均取引価

格が1トン当たり4,840米ドルに値上がりし、過去最高値を更新したと発表した。アジアを中心に需要が拡大する一方、主要乳製品輸出国の生乳生産量が低迷しているため、国際乳製品相場の高騰が継続している。

国際乳製品相場は昨年の秋頃から高騰し始め、今年に入ってから上昇スピードが加速している。EU(欧州連合)と米国は飼料コストの値上がり、オセアニアは悪天候による牧草の品質低下などが響き、主要乳製品輸出国の生乳生産が軒並み減産に陥っていることが要因となっている。

国際乳製品需給の逼迫を受け、EUは1月の乳価が生乳100キロ当たり41.79ユーロ(1キロ当たり54円89銭)と、欧州委員会が統計を公表している2013年以降の最高値を更新した。

## 2022年生乳生増加の見通し Jミルク

一般社団法人Jミルクは「2022年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について」を公表し、2022年度の生乳生産量は771万トン(前年度比0.8%増)と4年連続の増加を見込んでいることを発表した。地域別には、北海道で主力となる2~4歳や5歳以上の乳用雌牛頭数が2021年度を上回って推移する見通しなどから、439万7,000トン(同2.0%増)と6年連続で増加する見込みとした一方で、都府県では、同乳用雌牛頭数が減少に転じる見通しにあることなどから331万3,000トン(同0.8%減)を見込んだ。

### 飼料のご用命は

武陽食品株式会社

飼料部宮城営業所 飼料部福島営業所

東北第一営業所山形出張所 担当

## 12月牛肉生産前年同月比0.2%増 農水省

農林水産省は、2021年12月の牛肉生産量は、3万1,355トン(前年同月比0.2%増)と前年同月並みであったことを発表した。

品種別には、和牛は1万5,884トン(同0.5%増)、交雑種は7,720トン(同0.4%増)といずれも前年同月をわずかに上回った一方、乳用種は7,265トン(同0.8%減)と前年同月をわずかに下回った。

過去5カ年の12月の平均生産量との比較では、1.3%増とわずかに上回る結果となった。

## 12月牛肉輸入年同月比7.2%減 農水省

農林水産省は、2021年12月の牛肉輸入量は、米国産および豪州産の輸入量が現地価格の高止まりなどにより減少したことから、4万5,695トン(前年同月比7.2%減)と前年同月をかなりの程度下回ったと発表した。このうち冷蔵品は2万785トン(同12.0%減)とかなり大きく、冷凍品は2万4,878トン(同2.9%減)とわずかに、いずれも前年同月を下回った。

過去5カ年の12月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は9.2%減とかなりの程度、冷凍品は2.4%

減とわずかに、いずれも下回る結果となった。

## 米国牛総飼養頭数2.0%減 USDA

米国農務省全国農業統計局(USDA/NASS)は、2022年1月1日時点の牛総飼養頭数は9,190万2,000頭と前年比2.0%減となったことを発表した。特に肉牛繁殖雌牛、繁殖後継牛の減少が大きく、現地報道によると、干ばつによる牧草の生育状況の悪化などを受けて、生産者が繁殖後継牛を淘汰した影響が大きいとしている。

一方で、オミクロン株の流行により、大手パッカーの労働者の欠勤率が上昇しており、食肉処理場の稼働に支障を来すなど供給網にも課題が生じている。さらに、飼料コストの上昇が生産者の収益を圧迫していることから、生産者の増頭意欲は限定的なものとなっている。

干ばつに伴う一時的な出荷頭数の増加が一段落した後、牛肉生産量が減少し、今夏以降の牛肉需給がひっ迫傾向となる可能性が高いことから、現地関係者の間では、当面の間は牛肉価格の高騰が続くのではないかとしている。

### J-オイルミルズ ファイバーフィード 乳用牛・肉用牛飼育用配合飼料

ファイバーフィードは、大豆皮を主原料とし、ペレット化した混合飼料です。大豆皮はNDF含量が高いにもかかわらず、リグニン含量が低いため消化性が高く、高エネルギーです。高繊維、高エネルギーの原料である大豆皮をふんだんに使用した、ファイバーフィードはJ-オイルミルズにしかない、独自の飼料です。

夏場の飼料給与には、粗飼料の不足を補い、第一胃内の発酵の安定させる、ファイバーフィードをお勧めします。



成分	原物中	乾物中
粗たん白質	14.0%前後	16.0%前後
粗脂肪	3.0%前後	3.4%前後
粗繊維	23.0%前後	26.4%前後
粗灰分	7.0%前後	8.0%前後
カルシウム	0.40%前後	0.40%前後
りん	0.15%前後	0.17%前後
TDN	65.0%前後	74.7%前後